

2015 年 (平成 27 年)

11 月 7 日 土曜日

佐賀新聞

第 45321 号

臣

ニュージーランド生まれで甘みが強いキウイの品種「ゼスプリゴールド」の収穫作業が、佐賀県内で始まった。秋の好天で例年以上の出来。作業は11月中旬まで続き、350トほどの収量が見込まれている。

ゼスプリゴールドはニュージーランドのキウイフルーツ商社「ゼスプリ」の品種で、黄色の果肉と20度近い糖度の高さが特徴。日本で栽培しているのは佐賀、愛媛の2県だけで、県内では同社と契約している佐賀市の総合商社「アグリ」（坂本徹哉社長）の管理の下、唐津市や鹿島市な

ゼスプリゴールド収穫

県内各地



葉の間から日光が差し込むキウイ園で、ゼスプリゴールドを収穫する農家＝藤津郡太良町

NZ生まれ 甘いキウイ

どを中心に農家150人が計45畝で栽培している。

収穫は10月28日に始まった鹿島市の農家を皮切りに、果肉の色が基準に達したキウイ園から順次開始。藤津郡太良町の中山間地で2・3畝を栽培している前田誠さん(58)は家族ら7人で収穫、選別作業に汗を流していた。

アグリの技師長を務める梶山正喜さん(67)は「春先は気温が低くて心配したが、秋の好天と生産者の努力で糖度が高く、そろった品質が期待できる」と話している。(田田浩二)